



1_ホップ農家の方ともビアツーリズムの話や醸造に関する話など、随時打ち合わせをしている 2_5月にオープンした「遠野醸造TAPROOM」。遠野産ホップを使ったクラフトビールなどを楽しむことができる醸造所&バブとなっている 3_現在、8月25・26日に行われるホップ収穫祭に向けて実行委員メンバーが準備を進めている。当日の会場は蔵の道ひろば。遠野醸造のビールも販売される予定

イベント 8月に企画しているイベントです
お気軽にお問い合わせください

**第10回おもしろTONO学
『遠野物語序文の世界』**

- 日時: 8月25日(土) 9時~15時半
※開催日は26日から変更になりました
- 集合: 旧三田屋呉服店(一市通り)
- 内容: 柳田國男が100年前に歩き、遠野物語の冒頭に生き生きと記した遠野の道を追体験する試みです。
- 参加費: 2,500円(市内在住の方: 1,500円)
- 定員: 20人
- 問い合わせ
to knowプロジェクト富川岳
電話: 080-5451-0290
メール: gaku@tomikawaya.com



ください。
するべく、実行委員のメンバーや全員で準備しています。今年は「遠野ホップ収穫祭」の実行委員長も担当。今年初めてチャレンジする企画も考えていて、パワーアップしたイベントにみんなも、ぜひ足を運んでください。

新卒で入った会社で、主に住宅分野の新規事業立ち上げや法人向けコンサルティングを7年間担当。貴重な経験をさせてもらったサラリーマン時代でした。一方で、いつかは都市部ではなく地方で活動したいという想いがあり、会社を辞めて遠野に拠点を移しました。

遠野に来てからどんな活動をしてきましたか?
遠野に来てからどんな活動をしてきましたか?
遠野に来てからどんな活動をしてきましたか?
遠野に来てからどんな活動をしてきましたか?
遠野に来てからどんな活動をしてきましたか?
遠野に来てからどんな活動をしてきましたか?

遠野が「ビールの里」になつていぐには何が必要なのかを考え、それらを少しずつ形に書いています。将来的にビールにまつわる商品開発にと考えています。ホップや醸造所も、もう1つ作りたいと思います。

レポート 6月の活動のトピックをお伝えします

▼一日市通りに新拠点「小上がりと裏庭と道具 ゆう」がオープン!

一日市通りにある「コモンズ・スペース」の隣に、どなたにでも自由にご利用いただける拠点ができました。名前のとおり、小上がりや裏庭の他、工具や3Dプリンター、パソコン、本、裁縫道具など、置いてあるものを使って自由にお過ごしいただけます。

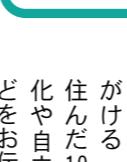
左から
○美浦純子さん、横浜市から
ビールツーリズム担当
○里見一彦さん、さいたま市から
ホップ農家
○中村友隆さん、名古屋市から
ホップ農家

▼ビールプロジェクトに新メンバー!

ビールプロジェクトに、新しく3人のメンバーが加わりました。ホップ生産、ビアツーリズムなどの活動を行います。

「ビールの里実現へ」
ビルプロジェクト 田村淳一さん

遠野で起業に挑戦中!
Vol.5



平成28年から市と(株)ネクストコモンズが
がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り
住んだ10数人の地域資源を生かした起業・事業
化や自立に向けた活動の様子、イベント情報などをお伝えします。

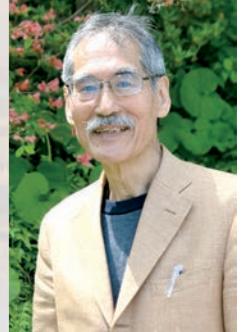
遠野文化研究センターだより とおのじん ー其の3ー

遠野人

遠野文化研究センターの活動に興味を持っていたりする情報を、6月号からお届けしています。
今月も、あの「カッパ」です。

★筆者 木瀬 公二

遠野文化研究センター研究員、朝日新聞・社友記者。1948年東京生まれ。73年朝日新聞入社。元盛岡総局長。08年に達曾部に移住。著書に遠野物語関連の『119のはなし』など。



にどうしたのだろう、と周りの人もいぶかしがった。カッパ村の収入役はピンときた。馬の天敵はカッパ。収入役は全員の胸についた「カッパ村民」の名札を回収して両手で封印し「カッパの気配を消すように」と伝言。それから間もなくシラユキは落ち着いた。

そんな交流を、カッパ村と遠野市は深め、昨年11月には、大阪府在住の会員の収蔵品1576点を寄贈いただいた。文化研究センターの長谷川浩学芸員らがそれを受けた。そのお披露目をしようというが、今回の展覧会の目的の一つだ。寄贈品の中から、目で見て楽しめる全国のカッパ民芸品を中心に約100点を展示した。



河童展を解説する長谷川学芸員

7月号に続いてカッパの話です。いま、博物館で「遠野物語と河童」展が開かれているからです。話は、10年前の市長室から始まります。移住してきた私が、遠野市を担当する新聞記者としてあいさつに伺った時のことです。

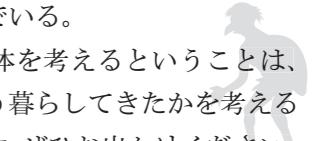
応接セットの脇テーブルにあったチラシのような物が目に入った。「カッパ村広報」という題字が読めた。首都圏を中心としたカッパ愛好家が作る団体で、年明けに新年会をすると書かれていた。その会場が、私が学生時代によく通った新宿の飲み屋だった。懐かしさも手伝い早速、新年会の参加を申し込んだ。

久しぶりの飲み屋は、マスターは昔のまま。ピアノがありドラムがありギターやカスタネットなどを自由に使い歌い、踊るそのスタイルも同じだった。そのうるさい中で、カッパ村の大野芳村長に話を聞いた。1975年に会を結成し、その年にカッパ探しのために遠野に来たと言った。猿ヶ石川の河原にテントを張って5日間、捜した。

目撃者も訪ね歩いたという。

新年会場には、カッパの番組を作った元NHKディレクターもいた。その番組「河童は生きている」のビデオを貸してもらった。全国のカッパ目撃談を集めた中に、「カッパの皿を持っている」という沿岸部の人も登場した。ディレクターはそれを借り、東京国立博物館で鑑定してもらったところ「ウニ科の動物の化石」と鑑定されたが、それは放映されていなかった。

カッパ村は3年前、開村40年記念で再び遠野を訪れた。地元の文化にも触れようと遠野郷八幡宮の流鏑馬も見学した。最前列のその席で見ていると、先頭を歩く馬のシラユキが落ち着かない。いつもおとなしいの



►★今月のプレゼント

このコーナーについてご意見・ご感想をお寄せいただいた方3名様へ、抽選で上記博物館特別展図録『遠野物語と河童』をプレゼントします。①お名前②ご住所③電話番号④感想一を添え郵送、ファックス、メールのいずれかで下記まで送付ください。多数の応募をお待ちしております。※締切8月31日(金)



★問い合わせ:遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp